

会 議 録 ( 要 旨 )

会 議 名	第2回武蔵村山市立温泉施設在り方検討委員会
開 催 日 時	令和5年5月25日(木) 午前10時～午前11時30分
開 催 場 所	中部地区会館402学習室
出 席 者 及 び 欠 席 者	出席委員：毛谷村委員長、宮本副委員長、内野(正明)委員、内野(均)委員、井上委員 欠席委員：栗原委員 事務局：協働推進部長、産業観光課長、産業観光課観光係長、産業観光課観光係主事、コンサルタント会社
議 題	報告事項 (1) 第1回会議の結果について (2) 各種調査結果の報告について 議題 (1) 今後の方向性と検討シナリオについて (2) その他
結 論 (決定した方針、残された問題点、保留事項等を記載する。)	議題 (1) 今後の方向性と検討シナリオについて シナリオ全4案に対する意見のほか、福祉・健康増進施設としての利活用、施設の廃止などの意見があった。 今後、意見を踏まえ、シナリオの見直し等を行うとともに、想定されるシナリオについて、改修費や維持管理費など費用の概算を行い、方向性の絞り込みを行うことを確認した。 (2) その他 第3回検討委員会の開催予定を報告した。
審議経過 (主な意見等を原則として発言順に記載し、同一内容は一つにまとめる。) (発信者) ◎印=委員長 ○印=委員 ●印=事務局	報告事項 (1) 第1回会議の結果について (説明) ● 第1回検討委員会では、委員長及び副委員長の選任、会議録の公開について審議を行った。 報告事項としては、1武蔵村山市立温泉施設在り方検討委員会について、2武蔵村山市立温泉施設について、3これまでの検討経過について、の3項目について報告した。 ○ 会議録の内容については異議なし。 ● 市ホームページにて公開する。  (2) 各種調査結果の報告について 事務局より資料2、資料3、資料4に沿って説明。 (質疑) ◎ 平日は高齢者、週末は家族連れと、平日と週末で利用形態が異なっている。それぞれの収入がわかると良い。また、市民のための施設であれば、平日の利用を優先するべきか。 ◎ サウナの充実を望む声が多いが、当該施設では、お湯を沸かしているため、燃料費が嵩む要因となるのではないか。 ◎ 職員アンケートの「当該施設を利用しない理由」について、6割が「知り合いに会う可能性が高いため」と回答している。市民にとっても、近隣の人に裸を見られたくないという思いがあり、車を利用して様々な温浴施設に行っているのではないか。 ◎ 資料2の問3の結果を参照すると、当該施設の西側より東側の

- 方が、利用者が多くなっているが、人口が多いことが要因か。
- 人口が多いことが一番の要因ではないか。車移動のしやすさも理由となっていると言える。
  - わざわざ来るといふより、青梅市や所沢市などへ、レジャーへ行った帰りに寄るケースが多いのではないか。
  - 職員アンケート、利用者への聴き取り調査においても、あきる野市「瀬音の湯」、昭島市「湯楽の里」、日の出町「つつる温泉」など、西側の施設を利用している人が多い。西側の方は、近場の人気の施設を利用している可能性が高いのではないか。
  - 昭島市「湯楽の里」は温泉の種類、サウナが充実している。本施設は、入り口は立派だが、中に入るとお風呂の種類も少なく、特徴もない。
  - 当該施設の入り口は格好いいが、浴槽の種類が少ない。普通のお風呂ではなく、信楽焼の一人風呂や、寝湯、電気風呂など、利用者はどれかが気に入って来ることが多い。
  - 近隣で、プールとお風呂を併設している、老人福祉センターのようなものはあるのか。
  - 市内に、福祉会館があり、コロナ禍までは入浴ができるサービスがあったが、令和4年9月末に廃止している。近隣市の状況までは把握できていない。
  - ◎ 現在の利用状況や今後の社会動向を踏まえ、高齢者の施設にする可能性もあり得るか。
  - 福祉会館の入浴サービスが廃止になった際に、利用者への入浴料の割引なども検討したが、コロナ禍が長引いたこともあり、ニーズがあまり無かった。
  - ◎ 一般の人は民間の施設を使ってもらい、高齢者に特化した施設にする可能性もある。設備をそれぞれのターゲットに合わせたら転用できないという懸念点もあるが、アイデアとして、可能性はある。
  - 例えば、平日だけでも高齢者向けの運用を行う等の工夫はできるのではないか。
  - 3月の来場客が増えたと聞いたが、3月の収支は出ていないのか。
  - 指定管理者から、昨年度の報告書がまだ出ていないため、把握ができていない。
  - 建設の際、国の補助金が充当されているのか。
  - 建設時の補助金はあったと記憶している。いずれかの大規模改修の際に、市町村総合交付金を充てている。
  - 補助金を充当している場合、用途変更すると、返還の義務はあるのか。
  - 返還の義務は無い。
  - ◎ 周りの環境と、利用者の実態について把握した。それらを勘案した上で、今後の方向性と検討シナリオについての説明をお願いしたい。

#### 議題

- (1) 今後の方向性と検討シナリオについて  
事務局より資料5、資料6に沿って説明。  
(質疑)
- ◎ 本施設の強みがいくつか挙げられているが、集客力につながるような強みではないように思う。
- 強み・弱み等の区分や、シナリオに関しては、あくまで一つの方向性として示している。強み・弱み等の捉え方も含め、忌憚のな

い御意見をいただきたい。

- 従来どおり、どこかの事業者に運営を任せるのか。その場合、シナリオ4は難しくないか。
- 市が直接運営することは難しい。現在の指定管理者制度か、あるいは直営だが民間委託（業務委託）という形になると考えている。
- 事業者が収益を確保できないと、手を挙げてくれるところはない、ということが前提条件か。
- 当該施設では完全利用料金制をとっている。市からは指定管理料を支払わないということになっているが、例えば、さくらホール、緑が丘ふれあいセンターなどのように、利用料金収入の他、指定管理料を支払って運営してもらうことはあり得る。
- ◎ シナリオを事業者に提示し、誰もできないとなると、他のシナリオも検討する必要がある。
- 野山北・六道山公園にオートキャンプ場を作るとしたら、土地利用の変更は可能なのか。民間業者に土地を提供し、施設の改修、運営までやってくれるのであれば良いが、市のものだと突飛なものではできないが、代わり映えしないのも寂しい。狭山丘陵の緑やアスレチック、遊歩道を生かした、集客できるものをつくりたい。食べ物も食べられて、地産地消の買い物もできる施設になると良い。
- ◎ シナリオ3のオートキャンプ場は季節性のものであるため、冬場は来てくれない。シナリオ1・2・4については、そこまでの季節性はない。また、シナリオ3は、主に週末の家族層を拡大するシナリオとなるが、市として、その方向性で良いか判断が必要か。
- スーパー銭湯に勝つことは難しい。プールを廃止し、狭さを解消し、サウナを充実させたい。武蔵村山市でバーベキューができる場所は少ない。都内近郊で子どもが遊ぶ場所があるため、キャンプは冬でも人は来ている。他にもうどんを作る施設を常設するのはどうか。
- ◎ シナリオ3だけが、プールを存続する案となっている。
- プールは廃止した方が良い。お湯の量も、光熱費も減る。ガスにしたらコストは削減できるのか。
- 設備の中には空調関係も入っている。お湯を沸かす行為は必須である。プールを廃止すれば、人件費、光熱水費を減らすことはできるかもしれない。
- ◎ プールの代わりにお風呂を作れば、光熱水費が上がる可能性がある。
- サウナは光熱水費が嵩むか。
- ◎ 電気でボイラーを沸かして蒸気を発生させる。それなりの利用料金を設定しないと厳しい。あの規模の施設でそれだけの人気を得ることができるかということ、マーケティングも必要。現在の施設の目地の写真を見ると、改修費も嵩むのではないか。
- 屋内の浴槽は、プールも含め、目地の痛みがかなり進んでおり、継続するのであれば、全部張り替える必要がある。見積もりは概算で約4,000万円であった。
- ◎ 一般の施設と競合しようとする、改修しないと難しい。福祉施設であれば、施設や機能に対して高いスペックが求められるわけではないため、施設の方向性は重要ではないか。
- シナリオ4について、経費はどれくらい削減できるのか。
- これから検討する。
- プール部分を休憩施設として改修する場合、漫画喫茶のようにして長く休憩してもらうということか。

- 滞在時間を伸ばすことを目的としている。
- レストランを拡大することは難しいか。
- 平成29年度の改修では、休憩スペースや、ヨガ教室など自主事業を行うためのスペースを確保するため、レストランを縮小している。縮小した部分を復活すれば、レストランを拡大することは可能だが、休憩スペースはやはり必要か。
- レストランの利用率が3割というのは高いと言えるのか。
- もう少し、使ってもらいたいと考えている。
- 滞在時間が増えると、飲食の利用が増えるのではないか。
- ◎ シナリオ4を実現するならば廃止の方が良い。シナリオ1と2は、何を施設に導入するかの違いで、そこまで変わらない。シナリオ1・2と、シナリオ3の2パターンしか選択肢はない。シナリオ3は外だけ変えて、内側は変えず、リスクが一番少ない。お金を使い、内側を変えるのがシナリオ1・2。別のパターンとして、プールは存続して、使い方を変える方法がある。平日に利用する高齢者に向けて、福祉医療施設への転換もある。施設の綺麗さではなく、機能の方に目が向けられる。
- コストを削減するだけで利用者を増やすのは難しい。利用してもらうことが目的ならばシナリオ4はない。
- 事務局としても、シナリオ1と2はあまり変わらず、どのようなコンテンツを入れていくかが重要となってくるという認識でいる。シナリオ4については、プールを廃止した場合のベースとして設定している。このシナリオ4をベースとして、シナリオ1や2、若しくは福祉系、健康増進系施設等への展開も検討できると良いと考えている。
- ◎ シナリオ1・2もプールを廃止するパターンだが、シナリオ4との違いは、プールの代替として、何かを導入するかしないかの違いと捉えれば良いか。
- その通りである。
- シナリオ4の場合も、プール廃止後、利用者の状況を見て異なる機能を導入する可能性があるのではないか。そういう意味では、シナリオ4は、シナリオ1・2のベースとなり、具体的な改修までタイムラグがあるかどうかの違いと捉えればよいか。
- そうとも言える。シナリオ4は、プールを廃止した場合の効果を見極めるベースであり、シナリオ1・2と比較するベースともなる。
- ◎ プールを廃止して、温泉だけで運営する可能性もあるのか。お風呂とプールの利用料金を分けてほしいという意見も出ている。
- 過去に一度、プールに不具合があり、温泉だけ運営していたことがあったため、可能性はある。
- ◎ お風呂の需要が高いなら、一つの手である。
- 平成14年の設立当時、市内に屋内のプールがないということで温泉施設内に作ったという背景がある。現在は、東京経済大学、民間のスポーツ施設が屋内のプールを所有している。プールの機能が代替できるのであれば、本施設にプールがなくても良いという考え方もできる。
- ◎ 当該施設できちんとしたプールを所有するよりは、市立の中学校に屋内プールを作り、各学校が練習に来ることができ、空いた時間には一般開放した方が喜ばれるのではないか。
- そうした考え方もあると思うが、他の所管にも影響する事項であるため、まずは、産業観光課として、本施設の在り方を検討する必要がある。
- ◎ 観光行政の一環で考えるならば、プール廃止が一番良いという

	<p>結論になるのではないか。存続するのであれば、有効な利用を考えなければいけない。施設を使ってくれる、健常者ではない高齢者に使ってもらおうようにするのであれば、市民の納得のいく施設になるのではないか。この施設だけで、平日に市外から訪れてくれるプールにすることは難しい。</p> <p>シナリオの見直しを行った上で、次回以降、提案されるシナリオについて改修費や維持管理費の概算を基に方向性の絞り込みを行う。</p> <p>(2) その他 (説明)</p> <p>● 第3回検討委員会は7月に開催予定であり、日程は事前に調整する。</p>
--	--

<p>会議の公開・ 非公開の別</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> 公開  <input type="checkbox"/> 一部公開  <input type="checkbox"/> 非公開</p> <p>※一部公開又は非公開とした理由</p> <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; border-bottom: 1px solid black; height: 40px; margin-left: 20px;"></div>	<p>傍聴者： _____ 0人</p>
-------------------------	---	----------------------

<p>会議録の開示・ 非開示の別</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> 開示  <input type="checkbox"/> 一部開示(根拠法令等： _____ )  <input type="checkbox"/> 非開示(根拠法令等： _____ )</p>
--------------------------	--

<p>庶務担当課</p>	<p>協働推進部 産業観光課(内線：224)</p>
--------------	----------------------------

(日本工業規格A列4番)